



2017年(平成29年)

12/18 月

発行 株式会社投資日報社
www.toushinippou.co.jp/

第9巻 第49号 通巻425号

日経平均株価

～ギャン理論から見た株式～

2018年後半の展望《前篇》 ギャンアナリスト 中原 駿

【7の年を振り返る】

先ずは、1936年以降の「7」の年を振り返ってみる。
1937年【下落○】…盧溝橋事件。事件直前(7月)まで上げていたが、イッテコイに。
1947年【上下一】…日本証券取引所解散。戦後の経済混乱続く
1957年【下落○】…なべ底不況。6月高値後、9月まで急落。年を通して弱かった。
1967年【下落○】…証券不況克服後、4月、6月ダブルトップ。その後下落基調へ。
1977年【下落○】…ミニ不況。76年11月からの上昇は、6月、10月でダブルトップに。年間高値は8月。年間安値は12月。
1987年【上昇○】…バブル景気。超金融緩和で上昇するも、11月にブラックマンデーが。
1997年【下落○】…アジア通貨危機。本邦は第二次平成不況に突入。7月に高値形成。
2007年【下落○】…06年7月から始まった反騰相場は、7月に大天井。サブプライム危機が到来。

過去「7」の年は弱かった。パターンとしては①強気相場は弱くても4月、通常6月前後まで続き、その後10月前後まで下落。年末は緩やかに回復する。②強気相場が9~10月まで続き、その後大暴落し、年末は緩やかに戻す。③年初から弱く、2~5月に底打ちし、僅かに7月前後まで反騰。再び大幅下落する。という3パターンであった。しかし、実際に2017年の相場を振り返ると、1月から直ちに下落して4月に安値を付け、6月まで緩やかに反騰していった後、相場は9月初旬まで押し、その後は大幅に上昇するというパターンであった。その意味では③のパターンに近かったが、9月以降の大幅上昇は想定出来ていなかったといえるだろう。その意味で、今年は例外的な上昇パターンであった。

【8の年を振り返る】

では次に、1938年以降の「8」の年を振り返ってみよう。
1938年【下落○】…中華民国と泥沼の戦争。経済は低調。
1948年【下落○】…戦後の経済混乱が続く。
1958年【上昇○】…岩戸景気が始まる。強烈な技術革新で、日本の製造業が最強に向かう。
1968年【上昇○】…いざなぎ景気の爛熟期。大幅上昇が続く。
1978年【上昇○】…公共投資景気。ただし10月に第二次オイルショック。
1988年【上昇○】…バブル景気。超金融緩和で上昇する。
1998年【下落○】…第二次平成不況。ほぼ戻りなく11月まで下がる。
2008年【下落○】…世界同時不況。ほぼ戻りなく11月まで下がる。

こちらは、2008年までの時点で4勝4敗でイーブンであった。つまり上昇確率と下落確率は50%という事になる。

だが、その実態を探ってみるとその中身は「一方方向」あるいは「過剰」というのが「8」の年の特徴と言える。

特に、年初から11月あたりまで一方方向で相場が進んでいるというの特徴である。

例えば、58年から88年までの4つは一方方向に上昇していた。逆に、98年と08年は一方方向に下落していた。つまり、年の途中で「反転しない」というのが特徴となる。

言い方を変えれば、「8」の年でトレンドは変化しない、というのがポイントである。

【長期相場サイクルを振り返る】

以前からの指摘しているが、日経平均株価にも他の金融商品と同じく長期サイクルが存在する。

安値から安値のサイクルは約8~9年。さらにそのサイクルの内部には、これを2分する4年前後のサイクル(ハーフサイクル)、または3分する3年サイクルが存在する。

この8年サイクルは、恐らく現在まで9つ確認されている。

日経平均株価8年サイクル

(そのハーフサイクル)

- | | |
|----------------------------|------------|
| ① 1950年7月～1957年12月：7年5カ月 | (1954年3月) |
| ② 1957年12月～1965年7月：7年7カ月 | (1961年12月) |
| ③ 1965年7月～1974年10月：9年3カ月 | (1970年5月) |
| ④ 1974年10月～1982年10月：8年 | (1977年11月) |
| ⑤ 1982年10月～1990年10月：8年 | (1986年10月) |
| ⑥ 1990年10月～1998年10月：8年 | (1995年7月) |
| ⑦ 1998年10月～2008年10月：9年6カ月 | (2003年4月) |
| ⑧ 2008年10月～(2016年6月)：7年8カ月 | (2012年10月) |
| ⑨ 2016年6月～(2024年6月?)：8年? | (2020年6月?) |

特に⑧の起点にして⑦のボトムであった2008年は4年、8年サイクルだけではなく、更に大きな18年、60年サイクルのボトム。更に⑧は、2016年6月24日にボトムをつけたと考えられる。

そして現行サイクルは⑨に入り、自下4年及び8年サイクルの上昇期に入っている。過去の3年サイクルの上昇期間は、平均1,009日、即ち 33 ± 14 カ月が上昇の標準。単純に言い換えれば3±1年程度の上昇期間が見込める。上昇が極めて短命に終わった61年(証券不況)と95年(金融恐慌)を除けば、最低でも1,000日、最長1,500日に亘る上昇が観察される。これを今回の上昇波動に当てはめれば、平均的には2019年3月前後、最大2020年8月までの上昇が見込めるという計算になる。

従って上昇トレンドが短命に終わらない限り、2018年は強力に上昇する相場になる可能性が高い。また、3~4年サイクルのボトムの1年前がほぼピークに相当するので、2018年6月～2019年6月が短めとしてのピークの想定時間となる。

また、2009年3月からのサイクルは3年サイクル(正確には32カ月サイクル、レンジ26~38カ月)が支配的ようであり、第1~3年サイクルは37カ月、第2~3年サイクルは29カ月、第3(最終)サイクルは26カ月であった。

3年サイクルが支配的であるとすれば、2019年2月最終週(レンジ2018年8月～2019年8月)にボトムアウトするだろう。また4年サイクルに回帰するならば2020年夏ごろまでボトムは到来しない。

サイクル的にトップの時間帯が第三位相で到来するのなら、2016年6月から22カ月目以降となり、第二位相で到来するのなら、16年6月から14~18カ月目がポイントとなる。従って前者であればトップは2017年8~12月に到来する事になり、後者であれば2018年4月以降に到来する事になる。そして現在、我々は前者のトップが到来する時間帯にいる。

更にサイクルを細かく見ると、現行相場は11カ月サイクル(3年サイクルの1/3サイクル)か、17ヶ月サイクル(4年サイクルの1/3サイクル)が支配的。前者のレンジは8~13カ月、後者のレンジは14~20カ月である。

日経平均株価(月足)

32カ月サイクルは11か月
サイクル(8~13カ月)
3つで構成されている



ここ数年の月足の日柄を見てみると11カ月サイクルが継続しているようで、2017年5月(2月～7月)と想定した11か月サイクルのボトムは、同年4月であった。次の11カ月サイクルボトムは2018年3月前後と想定され、その意味では2018年1~3月に向けての下落には注意したい。ただし、そこは絶好の買場であって、そのあとは一方的に上昇する事になるだろう。

【次週に続く】

テクニカル

レンジ内逆張り相場

日経平均株価はレクタンギュラ模様の調整に入っている。今年の日経平均は26年ぶりに高値を更新したものの、ほとんどの期間が調整である。週足チャートを見てもらえばお分かりの通り、トレンドが出現したのは上昇の期間で12週程度。下げる期間は3月から4月にかけての5週。年間51週の内、約3分の2の期間が保合いということになる。

前回のコメント「現在は第4波に相当する。この波がトライアングルかレクタンギュラなら、調整期間はやや長引くかもしれない」。特に現在は水星が逆行中。高下激しい展開が今週も続く恐れがある。

波動理論からすれば、この調整が終われば再び上昇することになる。つまり第5波動の上昇である。個人的にはこの相場は最低でも2019年前半まで上昇して34,000円以上を目指している。これは日経平均の4年サイクルに基づき、オリンピック前に天井を打ち、オリンピック後に底を打つシナリオだ。

目先の調整期間がいつまで続くか分からないが、23,000円

今週のいち押し ダイバージェンス祭り

ファンダメンタル面ではクリスマス前の薄商い、ジオコスマティック的にはダマシの多い水星逆行と、目先の金融市場は全体的に2重のノイズで視界不良の状態が続いている。

テクニカル的には、先週提示したドル指数とユーロ／ドル相場の2重ヘッドアンドショルダーは現在も維持されている。9月を頭とするユーロの三尊とドル指数の逆三尊がダマシに過ぎず、実態は11月を頭としたユーロの逆三尊とドル指数の三尊が文字通り「御本尊」であれば、視界が晴れた時に上下どちらかのネックラインが破られて行くだろう。現在はその直前でそのネックライン突破に関連する何らかのヒントを見つけては、紹介する姿勢に徹したい。1月まで影響は残るもの、水星逆行自体は今週末22～23日にかけて終了するのでそのヒントが相場転換点として何らかのツッカになるかも知れない。

という事で、ドル／スイスフランの日足をご覧戴こう。



レイモンド・A・メリマン 著 秋山日播香・投資日報編集部 訳
発行：投資日報出版 定価：8,100円（税込・送料別）

お問い合わせ
お申し込みは：**投資日報出版(株)** まで

〒103-0013 東京都中央区人形町3-12GRANDE人形町6F 電話:03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444

を週足引け値で上回れば調整終了のシグナル。この時に続伸する動きがあれば買い出動しても遅くはない。一方レクタンギュラ調整の下値は22,000円±300円。逆張りでは22,300以下があればゆっくり買い拾っておくことだ。レンジ下限に今週にも達すれば、年末までにまたレンジ上限を目指す動きになろう。以前述べた如く、12月は大幅に下落する確率は低いと見る。



スイスフラン／ドルのチャートであればユーロ／ドルのチャートと連動性がある事が見て取れるのだが、ドル／スイスフランとユーロ／ドルのチャートを並列で見ると、逆相関の状態になる。ここで注目すべきは節目となった時間帯である。

先ほど、ユーロ／ドルの三尊の頭を9月、逆三尊の頭を11月としたが、ドル／スイスフランの9月安値はユーロと同じ9月8日。しかし、ユーロ／ドルが節目となる安値をつけたのが11月7日であったのに対し、ドル／スイスフランは11月1日に節目となる高値をつけている。つまり11月に両相場は「異市場間ダイバージェンス」の関係にあったという事になる。

更にそこから反転した相場は、ユーロ／ドルが11月27日を高値に12月1日の高値とのダブルトップで反落したのに対し、スイスフランは12月1日で安値を更新して反転。ここでもダイバージェンス発生した。

スイスフランは12月8日再度反転したが、ユーロが反転したのは先週12日。従って、ここでもダイバージェンスが発生していた場合、今週はユーロ／ドルは上昇する公算が高い。



今週の相場風林語録

静中（せいちゅう）に動あり

相場に限って見て行く場合、死んでいる静なのか、冬眠している静なのか、動かない相場の中まで見通すことは必要である。世の中の流れや環境の変化に、静中、なにか反応らしきものがあるのかどうか。

今週の九星★波動

未だぬるま湯

南雲 紫蘭

21世紀の「チューリップバブル」といわれるようになるのでしょうか。仮想通貨、ビットコインの上昇が止まりません。

「時価総額は1,000兆円になる」「ドルやユーロなど世界全体の通貨供給量は約1京円。10%になれば1,000兆円だ。しかも、ビットコインの総発行数は今の仕様では上限は2,100万枚。あと約440万枚しか増えない。価格は必然的に急騰する」等々。

そのような意見がロジックを伴って現存しているのですから、ビットコインの買いも腰の入ったものかもしれません。

日本では想像しにくいのですが、結局、法定通貨が信じられない国家と、マネーロンダリングで資金洗浄したいキャッシュが溢れているのに違いありません。

株式や通貨の上下動が冗談にしか思えないビットコインの急騰は、恐らく2017年の歴史的な事件として永遠に記憶されるに違いありません。

相場指南道場
トレーダーあそなろ物語 (425)

中原 駿

アジアでも飲酒して大いに酔ってしまうことを歓迎する風潮は韓国以外では観察されない。

つまり、歓迎されていない、というか迷惑である、とみなされる。

特に中華系では飲酒そのものが歓迎されていないことも多く、酒を飲まない人もたくさんいる。

そして本質的には日本人も、中国人もさほど酒は強くなく、文化的にも飲酒が欧米ほど食事と密接に結びついていない。

李白のような酒飲みが天才的な詩を書いたこともあるが、例外的――といつていいだろう。酒飲みも、その結果としての酩酊状態も歓迎されるとは言いがたい。

第六感の



歪な三尊右肩完成か

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

短期売買で凌ぐ

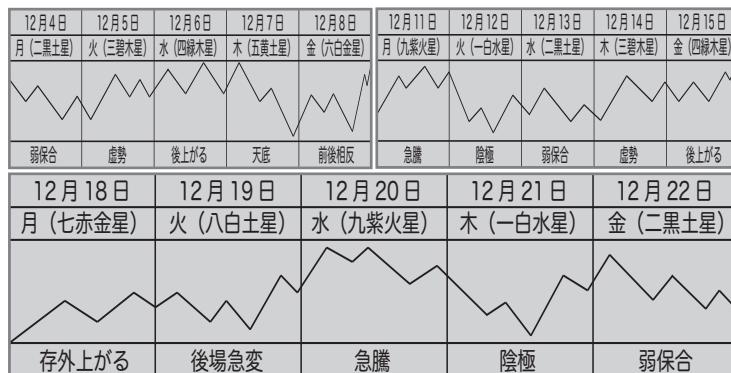
ドル円相場は先週掲載した如く、三尊の様相を色濃くしている。歪な三尊パターンを形成し、先週は右肩形成中と述べたが、雇用統計からFOMC前にかけてそれは完成されたと見る。これが事実なら、ドル円は目先下げるが、中期的には強気であり、これまで次の通り述べた「1年サイクルは9月3日で付けていると判断している。したがって、この相場は中期では強気。そのため一般の投資家は3ポイント上値抵抗をブレイクしたところから買いを狙う」とした。

また7~11週サブサイクルは11月27日から始まっており、今週は3週目。少なくとも3~5週の上昇を想定していたが、FOMC後の急落が材料出尽くしとなり、さらに来年3回の利上げ予定も市場予想の範囲内。先週の高値を更新すれば、依然として3~5週の反騰で114円台トライの目は残されているものの、上述のパターンから見れば、ネックラインへの接近が視野に入る。

別の面からではドル円が歪な三尊を形成しているが、ドル指数は美しい三尊だ。ネックラインがやや右肩下がりだが、92.50をやや下回ったところに存在。これを下抜けるとダブルボトムが想定され、さらに下回ると90割れへと下落する。これはユーロの強気を支持することになる。ただドル円はストレートに下げる可能性があるが、それはつま

さて、九星波動は現在の月盤『七赤金星』も中盤に入ります。じり高を示唆するこの星の下で、なんともゴルディロックス(ぬるま湯)的な相場が続いている。

緊張感は無くとも、このまま年末は安定したものとなりそうです。問題は、来年年初からいきなり大きな動きがありそうなので…。



上野としては、途中で記憶を失ったことは重大事であった。

ワン・メン・メンと一緒にいる間に記憶を失ったのであれば、上野の国際人としての評価はすでに失われてしまっただろう。

もし、ワン・メン・メンと分かれた後であれば、まだ救いはあるはずだ。

上野は昨日の夜を反芻した。

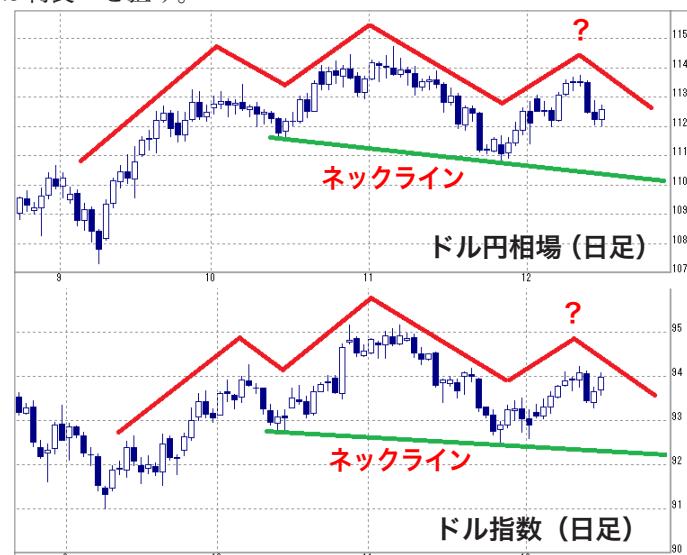
ワン・メン・メンとの会話はとても緊張したが楽しいものだった。

ワン・メン・メンの柔軟な顔を思い出すことも出来る。ワン・メン・メンとは、握手をした。その場で別れたはずだった。

記憶があるということは、ワン・メン・メンの前では記憶ははつきりしていたはずだ。ということは、ワン・メン・メンの前ではなんとか保てていたはずだ。となると、その後なのだろうか。ならば、記憶はどこで消えたのか…。

り、107円～115円の幅で長らく推移することになる。ドル円レンジ相場、ユーロ上昇の局面は今年4～9月の動きをイメージする。ドル指数はこの間、100から91まで続落した。2週間前のストラテジーになるが「短期投資家は今週、113円30近辺で売りを狙い、ストップを浅くする」と述べたが、114円以上の引け値はストップアウト。一方、下げ過程では112円台は手仕舞いしたい。またその際、積極的な投資家は押し目買いに切り替える用意をする」。

ショートは利食いとなった。短期の買いレベルは111.88±0.25とする。ストップは111円割れの引け値。113円以上では利食いを狙う。



サイクルだけ話します。

—メリマン・サイクル理論 備忘録—

[第70回] NY白金のサイクルについて(7)

16年サイクルは、2つの8年サイクルで2分割され、その8年サイクルは2つの4年サイクルで2分割され、更にその4年サイクルは3つの16ヶ月サイクルに分割されるというところでサイクルを解説しました。これを週足換算で考えると、オーブも入れて4年サイクルは 208 ± 35 週。16ヶ月サイクルは 70 ± 12 週のサイクルで構成されているという計算になります。

実際、08年10月27日の安値752.1ドルを起点とした第2-8年サイクルは、81週、84週、78週で構成された週足サイクルで第1-4年サイクルボトムをつけています。第2位相の日柄が通常より2週延長されていますが、13年6月28日の安値1,295.4ドルまでの日柄はトータルでは243週でした。

問題はここから16年1月21日の安値811.4ドルまでの日柄がトータル134週。更にここから先週までの日柄がトータル99週。合計すると233週であるという点。ここに来て日柄が歪んでいます。長期サイクルボトムに内包する最終サイクルはしばしば歪み(短縮か延長)が生じますが、現行第2-4年サイクルはそのケースであると思われます。また16ヶ月サイクル3つではな

く2年サイクル(104週±18週)2つで構成されていると考える必要もあるでしょう。

もう一つのアプローチとして35週移動平均(70週の半分の日柄)と52週移動平均(104週の半分の日柄)で相場を見るというやり方があります。通常の日柄でも、あと10週以内に第2-4年サイクルはボトムをつけます。仮に延長したとしても、ここからボトムをつけた相場は、引け値で両平均を上回り、9月の高値を上回ると思われます。その具体的なトリガーについては、次週お話ししたいと思います。



メリマン通信 —金融アストロロジーへの誘い—

20~25日までの星回りは警戒

先週次の通り述べた“…12月21～22日の冬至(太陽の山羊座サインチェンジ)付近(12月20日)で、土星も山羊座にサインチェンジする。…太陽、土星、そしてもうしばらくすると金星が(FRB)始原図の太陽と冥王星とコンジャンクション(0度)、オポジション(180度)の関係になるという点。これは金融政策の変更を示唆する。水星順行もこの付近だ(22～23日)”。また今週の「MMA日経週報」でもこのような記述が“…これは1870年以来の天体现象だ。これは、必ずしも短期相場動向に影響を与えるものではないだろう。しかし超長期的に見た政府の在り方、政治の在り方、そして金融及び財政的な在り方に影響を与えるものと考える。それは、より強くなる統制を意味すると共に、世界規模での法と秩序に向けたより強力な奮闘を意味する”。

高く仕入れて安値で投げる投資家から 脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～パフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長 足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）

1870年と言えば、普仏戦争でフランスが負け、歐州の霸権がプロイセンに移った頃である。恐らくこのあたりの話が『フォーキャスト2018』のマンデーンパートで語られるのであろう。

さて、長期は別として、今週は土星のサインチェンジと冬至以外は18日の新月と20日(日本時間21日)の金星・天王星トライン(120度)以外、目立った天体位相が出現しない。ただ後者のトラインは、来週25日(日本時間26日)に出現する金星・土星コンジャンクション(0度)とセットで考えた方が良いと思われる。これは11月11日に終了した土星・天王星トラインに対する金星トランスペリューションである。また25日は金星の山羊座サインチェンジがあり、水星が順行に戻ってから最初の月曜日。クリスマス当日なので通常であれば閑散市場になるのだが、ここ数年は年末年始の時間帯で相場が荒れている傾向が強いので何らかのエポックメイキングが発生する可能性に警戒しておく必要はあるだろう。特に1月上旬までは水星逆行シャドウ期なので、星回り的にはまだ不安定要素が多い。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

12月18日(月)	市場心理が極端に傾く傾向あり
12月19日(火)	昨日の反動
12月20日(水)	2015年9月以来の 土星のサインチェンジ(やぎ座入り)
12月21日(木)	ゆっくりと市場人気が転換
12月22日(金)	トレンド再開の兆候
12月23日(土)	水星逆行終了
12月24日(日)	売買の基本は5%の高下を目安

フォーキャストのその先へ

【2018年新春勉強会】—2018年、如何に儲けるか—

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。2018年最初の勉強会では、前年の分析に加えて、2018年の重要な相場サイクル、天体位相等、複合的な解説を実施!恒例の新年会も行います。

講師	日時	会場
<第一部> 何より早い『フォーキャスト2018』ポイント解説 株式会社投資日報社 林 知久	1月27日(土)13:00～19:00	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町セタービル2階
<第二部> 第一四半期、儲けの機会を探る 株式会社投資日報社 代表取締役 鎌木 高明	<一般> 14,040円(税込) ※年会費付きの会員料、お迎え料手数料等はお客様負担となります。	<NMA会員> 10,800円(税込) ※年会費付きの会員料、お迎え料手数料等はお客様負担となります。
■ 詳細・お申し込みはこちらから		

(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <セミナー内【2018年新春勉強会】よりお申し込みください